2021年12月25日
51号

# 自然と文化だより

発行:NPOシニア自然大学校
自然と文化科

＊＊＊＊＊＊目次＊＊＊＊＊＊

P1　今号の TOPICS　長尾　雅人
P2　仲間たちの近況報告（1）
　　１班　井上　信子
　　２班　田中　朱実
P3　仲間たちの近況報告（2）
　　３班　青木　茂
　　４班　大森　美子
P4　専任幹事ご挨拶　福島　いずみ
　　リレー随筆　中川　一成
P5　私の玉手箱　藤原　雄平
P6　絵画コーナー　下浦　美代
　　木邨　圭子
P7　写真コーナー　中山　勝一
P8　樹形ウォッチング　遊上　眞一
P9　俳句・　山上　恵子
　　川柳コーナー　池田　清

◇自然と文化だより◇

前号でコロナの終息は見込めず、賢い対策が必須と書いていたが、嘘のように収まってきている。この急減について専門家も首をかしげている模様である。しかし何はともあれ、我々の活動が開始され、バスツアーも出来るようになり、なんと言っても少人数の飲み会が可能になった。飲食業に携わる方々は「ほっと」されているであろう。

韓国やヨーロッパ諸国では、また感染者が急増している。国が第６波対策を検討・実施しているが、我々の最小限の対策「手洗いやマスクの着用」は常に心がけなければならない。過去の生活にもどるのは尚早である。

## 今号の TOPICS～（副代表のご挨拶）

### 自然環境を愛す好青年

副代表　長尾　雅人

１０月上旬に、東北北部に初めて旅に出た。八幡平、岩木山、八甲田山と訪れた。ナナカマドやヤマブドウ等の真紅に、ブナやミネカエデ等の黄色、紅葉が山から麓へ下りていく様子が一目瞭然で、紅葉を満喫できた。しかし、花の季節は過ぎ、植物相も六甲山とはとても違うので、わからないものだらけ。そんな時、宿泊先で奥入瀬渓流での『樹木ガイドツアー』のチラシを見つけた。案内者は、何と１８歳。神戸市出身の青年ということも手伝って、参加することにした。

その奥入瀬渓流館に行く途中、形の揃ったブナの林の壁が一帯を覆う道を移動した。大木ではなくブナの二次林らしい。どうしてだろう？と何となく思う。

渓流館に着き、ガイドの案内を乞う。お客は妻と私の２人。青年は、少し緊張の面持ちだったが、神戸や六甲山の共通の話題からすぐに打ち解ける。ブナの原生林のﾌｨｰﾙﾄﾞに移動。

ブナの落葉が積み重なった土を触りながら、六甲山の森の土と比べる説明。なるほど土のフカフカさが違う。ブナの葉は分解される速度が遅く、フカフカさが水をしっかり溜める森のダムの役割をしている。流れ込む川のない十和田湖がいつも水を存分に湛えているのは、ブナのダムのおかげ。六甲山の森のダムが少し心配になる。ブナの二次林について問うと、昔、日清日露戦争のころ、農地等を軍に接収された農民らが、ブナの原生林を切り倒し、放牧地にし、家畜に日陰ができるように、若干のブナを残していたそうだ。やがて、戦争が終わり、農民らが元の場所に帰り放牧地が放棄されると、残っていたブナがタネを落とし、一斉に新しいブナが育ったので、同じような高さ太さの二次林のブナが整然と並んでいるそうだ。また、ブナがタネを播いても下草にクマザサが生えていると幼木が育ちにくいそうだ。クマザサが一斉に枯れるときに、ブナはタネを多く飛ばす年になることをずっと待っているそうだ。感心と感激。１８歳にしてブナの話だけでもこれ程素晴らしい。その他、アサダ、ドロノキ、キタコブシ、ユビソヤナギ、カツラ等、時間超過をしての充実の時を過ごせた。

コロナの影響で、環境関係で外国に留学する予定が一年延期になり、神戸から一年限定で、青森に移住して学習しているそうだ。その志を応援したい。

若い世代はより一層、環境に関して敏感であるだろうし影響を受ける。私たち世代は、視野を広く、若い世代に環境的にも経済的にもできること、伝えることを心したい。

## 白馬の旅

1班　井上　信子

2003 年 4 月に自然大学校 10 期生風組に入学。卒業後緑組 10 期生が立ち上げた「緑山会」に途中から入れてもらう。月２回のマイクロバスでの山行、年１回の高山への旅を楽しんでいたが 2016 年 9 月解散となった。惜しむ者達が年相応の山行を続けようと月 1 回、年 1 回高山へ行く「健康ハイキング」を作った。　昨年はコロナ禍で中止した白馬 3 泊の旅を今年は全会員コロナ２回接種済なので行こうとなった。

７月 28 日～8 月１日。白馬に３連泊し、栂池や八方尾根、五竜アルプス山野草園探索をする。乗車列車の時刻や泊まる宿などの案内書が届きワクワクして皆に「白馬に行ってくる」と宣伝しまくる。天気も快晴が続き台風も行き過ぎたあとでのルンルン気分。

当日。集合の新大阪駅新幹線の自由席めがけ足取りも軽く近づくと「あれ？知らない人ばかりだ。」「なぜ？どうして？」。出発時刻は迫ってくるのに・・。　会長さんに電話すると「天候が不安定なので中止メールを送りました。」「ええっ」一瞬しぼんでしまったが「一人で行くしかない」と新幹線に乗り込んだ。いつも人の後ろについて行くので今回もろくに行先吟味していない。白馬に着いたら駅案内で地図とバスの時刻表をもらい時間の組み立てをしようと心を落ち着ける。宿は取り消していた所を復旧させてもらい一安心。８月２日から東京も大阪も緊急事態宣言が出されるという。宿はキャンセルが続き客は私一人のみ。５階建ての宿なのに・・。　宿は八方インホメーションのそばでバスの利用に抜群便利。行先の時刻は始発に乗り最終で帰ると決める。山の景色や空気、足元に次々現れてくる高山の植物たちを、ゆっくりと誰にも迷惑をかけずに好きなだけ見れた。一人旅もいいもんだったね。　怪我の功名。

## 断捨離

２班　田中　朱実

何年か前からボチボチと荷物を減らしている。偶然見つけたブログがきっかけだ。ブログ主「ごんおばちゃま」のリーダーシップの元、読者が「片付け隊」なるものを結成し、ブログ記事にあわせて１日 30 分。要るか要らぬか、物と対峙する。

例えば、クローゼット。１回目見た時には、「少し体形が変われば着られるかも、また着る機会があるかも、この服は高かったから」処分しない理由がわんさか湧いてくる。しかし、そうして残しておいた服も、２回目３回目の見直しでは結局着ない事に納得して処分出来たりする

そうこうしているうちに、まず洋服が減った。100 枚→70 枚→50 枚。靴も減った。登山靴、ブーツまで入れても７足だ。食器も減った。自分でもパンパンだった収納スペースに余裕ができ、満足していた。

しかし二人目の孫が生まれた時、息子の家に手伝いに行って愕然とした。お嫁さんが入院している間私が困らないように、家にあるすべての物の場所が分かるようイラスト付きリストを用意してくれた。文字通りすべての物なのだ。家にあるすべての物を把握している事にまず驚き、そしてそれがぺらっと 1 枚の紙に収まる事にまた驚いた。

ああ、私はまだまだだ……

家中の物を把握し、大事なものだけ残し、自分の力量で愛情をかけてメンテナンス出来るものだけになったら、どんなに気持ちの良い空気が家中に流れるだろう。

その後、ごんおばちゃまは何冊か書籍を出し、ブログで皆を引っ張ってくれることはなくなった。一人ではやる気が続かず、ペースメーカーになってくれるものを探した。

そして、最近見つけた。断捨離の大御所やましたひでこの若いお弟子さん二人が、毎朝クラブハウスを開いている。今の若い人は優しい。今日のお題は「ハンガーからずり落ちてクローゼットの隅でくちゃくちゃになっている服」先日は「片方見つからなくなった靴下」暫く、この優しい二人に導かれながら進め、気力が充実したら再び鬼軍曹？ごんおばちゃまの本に戻ろう。

その名も

「あした死んでもいい片付け」ごんおばちゃま著

昭和の人間にはこのテンションがしっくりくる。

# 仲間たちの近況報告　（2）

## 米作り

３班　青木　茂

退職後の体力維持・趣味と実益を兼ねて米作りに本腰を入れ９年目になります。父が健在な時は、田植えや稲刈りを手伝う程度だったので、米作りについては全くの素人でした。

近年は米作りにとって大事な作業の一つ、『水の管理』もうまくできるようになってきました。

昨年のことですが、台風は一度も来ず、稲の生育状態は大変よかったので、今年は豊作だと喜んでいました。ところが、『トビイロウンカ』（以下ウンカ）の被害に遭いました。『ウンカによる被害』という言葉は聞いたことがありましたが、実際にどうなるのか見たことがありませんでした。隣家のおばさんが「今年のお米が大変やね！田んぼ全部やられた所もあるらしい。」と話しかけてこられた。訳が分からず、「どうして」と聞き返すと、「ウンカが発生しているらしい。田んぼの真ん中辺りが茶色で円形になるので『爆弾』というらしい。」と教えてくれた。我が家の田は大丈夫かと心配になり見に行くと、まさに円形に茶色くなった稲が・・・。

調べてみると体長が 4～5 ㎜のウンカが 6～7 月の間に大陸から風に乗って移動型（長翅型）が日本列島に飛来する。飛来後の圃場では、定着型（短翅型）が現れ、急激に増殖する。稲の根元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こすと書かれていました。

そこで被害が広がらないうちに慌てて稲刈りをしました。収穫量は前年に比べて少なかった。

今年はウンカの被害もなく無事に終えることができました。ただし、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が、大量発生し、取り除くのに四苦八苦しました。また 30℃近くの気温の中での稲刈りや籾摺りなどの作業が続き大変疲れました。

米作りは、その年の天候に左右されることが多く、今まで以上に様々な情報を取り入れることが大切であると痛感しました。「おいしいお米」を作るためにもう少し頑張ろうと思っています。

（スクミリンゴガイ）

（イネの花）

## 草木染の島　八丈島

４班　大森　美子

八丈島は「漂流・漂着・そして流人の文化」と言うそうだ。染物に興味があり京都の染め工房を訪れた事があったが「黄八丈」はシニア自然大学校に入り、コブナ草（八丈苅安）は黄色、タブノキ（マダミ）は樺色、スダジイは黒色、この三種で染色すると教わりました。

何時かその工程を見たいと思い、他にも目的があったので観光協会より資料を送って頂いた。

目的は第一に黄八丈の工房を訪ね種々体験すること、八丈富士のお鉢巡り、玉石垣見学、民俗資料館見学、何段にも連なるポットホール散策、天然温泉と欲張った。

黄八丈の工房を探したがコロナの影響で「何処もやって居ませんよ」とのこと。ショック。でも何処かないかと走り回っていたところ看板が見えた。ご主人らしき方が外出されるところだったので事情を話すと、快く中に入れて下さり丁寧に説明を受けた。その方は組合長さんでこれから会議に行かれるとの事。感謝・感謝の一時でした

染料は島内に自生している植物を採取して乾燥させその煮汁で染め上げる。特に黒八丈は樹齢 30 年以上の椎の樹皮を３年間乾燥させ、それを煎じた煮汁で染め、その後所謂泥の鉄分で媒染する最も手の掛かる染である。

泥田が劣化すると「ソテツ」の葉を入れて鉄分を補い染めていく。（大島紬の黒も同じ。）

「鉄が蘇ると書いて蘇鉄。」成程と納得。

歴史資料館では館長さんが話しかけて下さり、歴史・文化の事を説明して下さいました。

八丈島には縄文時代から人が住んで居たようです。

宇喜多秀家が流刑になり豪姫との別れが切ないと後に島民が二人を一緒にと像を作り、南原海岸に建立されていた。胸が熱くなった。

各地にある徐福伝説も八丈島にも有るらしい。

願わくば泥田に入り媒染体験をしてみたかった。

## 専任幹事のご挨拶

### 調査委員会の活性化をめざして

２班　福島　いずみ

前任の体調不良のため、突然専任幹事を任され、不安を感じながらスタートしましたが、先輩や皆さまの温かい励ましとご協力のおかげで、なんとか私なりに進めることができ、感謝しています。

☆新調査地：宝塚自然の家周辺

コロナのため有志で行った回も含め、７回の調査を実施、武田尾・道場では見られなかった植物たちに出会うことができ、昂揚感でいっぱいです。

春には、クチナシグサやシライトソウ、夏にはタチカモメヅルやママコナ、秋にはウメバチソウ、イヌセンブリ、ヤマラッキョウ、リンドウなど。また絶滅危惧のヤマトミクリ、オトコエシ、ミズオオバコなどにも出会うことができ、興奮しました。（写真は HP の調査記録にありますのでご覧ください。）

☆「畑メモ」電子データ化プロジェクト

はじめて調査に参加したとき、同定ポイントを簡潔に比較した畑さんのメモを拝見して、「こんなのが欲しい！」と思いました。畑さんの快諾を得て、調査委員が分担してエクセルに入力、はじめは皆さんに電子データで配信・各自印刷のつもりでした。しかし、だんだん立派な原稿がそろってきて、冊子にすれば濡れても滲まないし、内容的にもその価値があると判断し、予算化をお願いしました。予算が通り冊子化することが決まったため、ネットから図の拝借はできないので、イラストも自分たちで描くことになりました。お絵描きの苦手な私と田中さんが、ペイントを使って、少しずつ写真をイラストにしていきました。縮小するので案外ボロが隠れます。だんだん面白くなってきました。そして皆で点検・チェックし「野草の見分け・比較ポイント集」という小冊子ができました。（来年の調査・観察会に間に合うといいな。）

☆調査委員会はもっと観察会をやれの要望

観察委員会の方々から、調査委員会は好きなことばかりやってる、もっと科員のために働けと言われます。草本の調査活動は活動日以外にやっており、その同定作業や写真記録、まとめ作成も、簡単ではありません。また、シダやその他の勉強会も開き、興味ある科員の参加を募っています。しかし、観察委員会の大変さも十分に分かるので、年 2 回の草本観察会を年 3 回にすることを承知いたしました。

草本好きの皆さま、気の張らない草本の観察会に、どうぞお気軽にご参加ください！

## リレー随筆

### コロナ禍での健康管理

３班　中川　一成

2021 年もコロナ禍の中、早いもので年の瀬が近づいてきました。ほぼ一年にわたり外出自粛が続き、人間ドックに行くのもためらいました。また、夏は猛暑で外出できない日々が続きました。それでも、健康維持のため、週約１回のペースでジョギング(約 13km)をしてきました。

感染拡大の中、健康管理のために下記の機能を兼ね備えた体重計を購入しました(①体重　②体脂肪率　③内臓脂肪　④筋肉量　⑤体内年齢　⑥基礎代謝　⑦推定骨量　⑧ＢＭＩ　⑨体型判断)。これらの数値は、標準値との比較や、前回の測定値と比較して±で表示します。

⑤の体内年齢は、基礎代謝等の数値から計算されるモノサシです。私の体内年齢は、実年齢より 10 歳以上若い数値なので気分がいいです。しかし、前回の数値より＋3 になると憂鬱になり”運動せんといかんなあ“と反省しています。このように体重測定を続けることが健康管理に役立つと考えています。

他方、⑨の体型判断はいつも“運動不足型”と表示され不愉快であります。この原因は④の筋肉量が標準より少ないことが影響しているようです。

この筋肉量については ＮＨＫ番組“ガッテン(11/17 放送)”で紹介がありました。筋肉は寝ている間に分解（アミノ酸）されてエネルギーとして使われる（筋肉量の減少)。そこで、体がたんぱく質を必要としている朝に、たんぱく質をしっかりとることが必要である(筋肉量の増加)。そのたんぱく質の必要量は 20g である（私の朝は食パン１枚で４ｇ)。食品中のたんぱく質量の目安を”朝たんカード（下図参照）で表示し、35 品目の朝たんカードが掲示してあります（インターネットで検索可)。

ところで、キログラムの定義が 2019 年５月に１30 年ぶりに変更されました。昔は“国際キログラム原器”が定義でしたが、キログラムの新定義の概略は、「プランク定数を 10 の 34 乗分の 6.6 ジュール秒とすることによって定まる質量」と目に見えない定義に変わりました。何のことか理解できない今日この頃です。

## 平瀬作五郎のことなど

４班　藤原　雄平

小石川植物園に一度行ってみたいと前々から思いながら、リタイアした身には、東京はもう縁遠い地になってしまい、なかなか実現できないでいた。小石川植物園、正式名称は東京大学大学院理学系研究科付属植物園とやたら長い。やっと訪問の想いが叶ったのは、今から５年前、2016 年の秋だった。他の所用との兼ね合いもあって、滞在時間は２時間半。広さは 16 万㎡、甲子園球場の約４倍、近代植物学発祥の地と呼ばれ、4,000 種の植物があるという。これを駆け足で見なければならないのに、昔の武蔵野の地形を今に残した園内はアップダウンがいくつもある。正門から園内に入ると早速に急坂であるが、登りきったところに見どころの一つであるニュートンのリンゴの木がある。勿論、万有引力の法則発見のきっかけとなった樹そのものではなく、接木によって分譲されたものだ。そこから少し歩いたところに大きなイチョウの樹が立っている。樹齢 300 年、幹回り 4.9Mというから立派な巨樹である。この樹は、この植物園のシンボルといってもよい。ノーベル賞にも匹敵するくらいの大発見である裸子植物の精子を平瀬作五郎が世界に先駆けて発見した樹なのだ。幸い長寿であるため、今でも樹肌に直に触れながら、この樹の銀杏で大発見がなされたんだという感慨にふけることが出来る。

平瀬作五郎（1856～1925）のことはイチョウの精虫の発見者という以外何も知らなかったので、少しだけ調べてみた。福井の出身、成績優秀な少年は飛び級して 16 歳で旧藩制中学を卒業、そのまま母校の図画の指導助手となる。その直後に上京して油絵を学んだ後、旧制岐阜中学.の教員に採用され、若年ながら数多くの図画教科書を執筆した。32 歳の時に帝国大学理科大学植物学教室に画工として雇われた。画工の仕事とは、教授が講義に用いる掛図の絵や、論文の挿絵を描き、顕微鏡標本用のプレパラートを仕上げるなどだが、その技術力は抜群であったようだ。そのうち、植物学に興味が湧き研究に携わるようになった。1893 年にイチョウの研究を開始し、３年後の 1896 年１月には精虫を発見している。しかし、それからまもなくして事件は起きる。

発見からわずか１年後、大学を辞職して、東京から遠く滋賀県の旧制中学校教師となった。これにより研究者として活躍する機会が大きく失われたことを惜しむ声が後世高い。辞職の理由として、学歴の無い画工上りがつかんだ大金星をやっかむエリートの輩たちに追い出されたのだということが語られている。牧野富太郎博士はそのいきさつをこんな風に書いている。

「こんな重大な世界的発見をしたのだから、普通なら易々と博士号ももらえる資格があるといっても良いのであるが、世事魔多く底には底であって、不幸にもその栄冠をかち得なかっただけでなく、たちまち策動者の犠牲となって琵琶湖畔の彦根中学校の教師として遠く左遷される憂き目をみたのであった。」

これが事実とすれば、何ということかと義憤にかられるところであるが、但し、別の説もある。大学内の権力闘争に平瀬の属する矢田部良吉植物学教授一派が破れ、その関連で平瀬も大学を辞職したという説である。どちらにしても平瀬個人にとっては気の毒なことである。中学では研究はほとんどできなかったようだが、教育熱心で学徒に慕われる立派な教師であったと彦根中学でも、その後に赴任した花園中学でも高い評価が残されていることはせめてもの救いといえよう。

平瀬自身のこと、特に大学を辞めた背景などの話が中心で、イチョウの授精システムのことは、皆さんならご存じと思い触れずに来たので、最後に、このシステムについての、牧野博士の洒脱な解説を紹介して結びとしたい。

「この精虫出生の出来事を例えれば、これは許嫁の幼い男女二人があって、早くもその男が後にお嫁サンになるべき運命を持ったその娘の家に引き取られて養われ、後にこの両人が年頃になるに及んで初めて結婚するようなもんだ。」

（出典：牧野富太郎著「植物一日一題」）

あざみ

２班　下浦　美代

http://sizentobunka.jp/kaiga/index2.html

URL をクリックすると拡大します

スイレン

４班　木邨　圭子

http://sizentobunka.jp/kaiga/index3.html

## 遥かな尾瀬

４班　中山　勝一

中学時代、先生に連れられて登って以来、春（５月初め）から秋（10 月初め）まで通算８回も尾瀬行きをした。シニア自然大学校も自然学講座の尾瀬観察会につられて入会した。
各季節、夫々思い出に残るが、人影も少なくなり、風が吹き抜ける草紅葉の季節が好きだ。

燧岳　尾瀬ヶ原

ミズバショウ

リュウキンカ

チングルマ

尾瀬沼 三本カラマツ

ニッコウキスゲと至仏山

草紅葉の尾瀬ヶ原

## 独立木と林内木

４班　遊上　眞一

明石城公園のクスノキ。
周りに遮るものがない
ところに生える　独立木。
高さよりも横幅のほうが
大きい樹形になります。

箕面のクスノキ。
20 本以上が密集した　林内木。
高さは独立木と変わりませんが、
１本の樹形は　枝が横に張れず、
上にヒョロヒョロと　伸びています。

京都植物園　森のカフェの前に立つ
エノキの独立木。
上に　横にと、縦横に枝を伸ばして
こんもりとした樹形を作っています。

五月山のエノキ。周りに遮るものがなく独立木
かと思いますが、下部に枝はなく　上部も枝は
横に張っていません。昔　ここは森の中で、
エノキも自由に枝を伸ばせない　林内木でした。

# 俳句・川柳コーナー

1 班　山上　恵子

## 俳句

・県境銀杏落葉の降り続く

・道端へ枝張る柿の熟れ頃に

・老若の混じりて行きし渡り鳥

©2010 熊本県くまモン

## 川柳

・浮いた世を憂き世に変えたコロナです

・浮世をば離れて五輪開かれた

・お互いに飼って飼われて夫婦です

1 班　池田　清

## 俳句

・凩の研ぎ澄ましたる夜空かな

・軒先の竿たわむほど懸大根

・冬の朝光差し来る奥座敷

・湖岸へと鴨吹き寄せる比良おろし

・大氷柱雫に光る駒ヶ岳

今号も皆様のお陰をもちまして発行することが出来ました。
ありがとうございます。
引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

広報委員会